

からふる
き"あちゅき"あちゅ!
R2





「うっあ…出すぞ…
カレン…うっ
「あっ♡早くきてえっ♡
せーしっ♡せーしっばい
ナカに出してえっ♡

「うっく…あっ
「あっ♡やっ…んあっ♡
私もイっちゃうっ♡

「やん…♡あっ♡
スゴ…溢れてるっ♡
もう…出しすぎっ♡
「うっ…ナカに出せど
言ったのはお前だっ♡

「あは…♡そうだけど
ルル…シラて…やっばり
変態…よねっ
「んは…お前さんだっ♡



「…カレン
「ぶっあ？何よお…
「そんな事言うなら
もっと色々させるぞ？

「は…あ…今更でしょ…
すっ…好きにすれば
いい…じゃないっ♡
「わかった

「うてうてとぉーこんなん..
どうして縛るのよお..」
「まあ、拘束..というか
陵辱プレイ..だな
プレイ..って言うか
..痛い..ってば..」
「だが..つづいてのも
嫌いだわいだらうか..
お前はマゾだからな..」

「だ..誰がマゾ..あ..あ..あ..
「ほらそんな嬌声を出して..
もう反応しているじゃないか
「や..あ..回で..こんなん..あ..
痛い..の..に..気持ち..いい..」

ギョウウ

シリ



びくっ

「それとも……こっちの方が良いか？」
「ひっあ……♡やあ♡ちくび♡」
「硬いので……擦られて……♡」
「あッ♡♡やう♡♡あ♡♡あ♡♡」
「これ以上いじっちゃうらめ……♡」
「そんな声で言われても……」
「説得力はないな……♡」
「だって……♡だって……♡」
「ちくび……気持ちいいよ……♡」



ぎゅっ

ぎゅっ

「は……あ……そろそろ……俺にもして貰おうか」

「あ……凄……もうこんな巨……大きくなってる……ルル……ンが私で興奮……してくれてる……」

「ん……♡ちゅ……♡あ……♡ん……♡ちゅ……♡ふ……♡ん……♡」

「……ふあ……♡」

「あは♡いやらしい声出てる……」

「私の胸……気持ちいい……？」

「うー……ああ……良い……よ……」

「私も……硬いの……挿んでるだけで……イイ……♡興奮……しちゃう……♡」



「あーっ♡あッ♡あ...らめえ♡
ちくび、いじつたら私も...♡
イっちゃ...♡あああ♡♡

あ・あ・は・あ・うい

「はあ? 何だ、お前もいつたのか?」
「やっぱり、いやらしいな。」

三

130

130

130

「ルル、シュだってこんな
ヘンなプレイでこーんなに
出しちゃうんだから……
いやらしい変態……じやない……♡」



「……って今度はこんな……ルル……シユの変態っ」
「形がくっきりわかるくらいに」
「どうどうに濡らしているくせにっ」
「ごう……これは……紐が食い込んで」
「痛い、から……っあ♡」
「わかったわかった……」
「すぐに犯してやるから」
「えっ♡……って、そうじゃなくて……」
「もぉっ……ばかああ……っ」

どろろ

「そんなに力入れてたら
挿入らないぞ？」
「でも…その…」
「…怖い？」
「…ちやうと、だけ」
「だーいじょうぶだって!!」
「…ゆづくりするから…な？」



井上

「そんなん、ありんあつー」
「腰、揺らしちやらの」
「うわ、ダメだつー」
「ごめん、腰止められない」
「んくっーはっあう」

おちんちん

ぼん

五

५३५

「あんーあ…っふあ…っ
「ジノ…もう…らめえー
「んっ…もうちやうと、だつて…
も、イク…から…っく…
「んっーあ…あああああっ

ビュッ

ビュッ

「はっあ…ごめんはアニーマ…
「ゆっくりするって言ったのに
「…いい…ジノ…だもの
「んっ…それは良い意味か
悪い意味なのか…
どっちなんだろっつなあ…

びゅー

びゅー

びゅー

びゅー

「え…つと…アー…ヤ…
何してるんだ…？」
「…撮影
まさか…ブログに載せるとか
言わないよな…」
「記録…してるだけ…
海い、いっぱい…出てる…
ホント…好きだね…」



「んっ♡ぶあ…っ♡
ね…気持ちいい？
「ああ…良いよ…っ
「ん…嬉し…っ♡もうと
よくしてあげるね…♡
「…っ♡シャーリー…っ♡
「ふふ♡えっちな声…いっぱい
聞かせて欲しいな…



おし
や
し

お
し
や
し



ぽん

ぽん

「お兄様...あの、
これで良いのですか...?」
「ああ、いいよ、ナカリー」
「ふふ♡お風呂で洗いつこなんて
久しぶりですね...♡」
「でも...ちやうと取ずかしい...」
「嫌なのか?」
「いいえ...お兄様となら
私...嬉しいです...♡」

ん

ん



「お兄様、これは？」
「熱くて硬くて...大きい...」
「これを...ナナリィの手で...」
「洗って欲しいんだ」
「えっ...こ、こ、ですか？」
「...フー、そう、だ...身体と手で...」
「擦りながら...ゆづくり、な...」
「あ...これはきつと...お兄様の...」

「はっ……でるっ
「え、お兄様……今何を……さやうー
「なに……？ 何か……熱いものが顔に……
「すまない……ナナリーの洗い方が
「上手かったから……な
「そうなのですか……？ 良かった……
「私……ちゃんと……出来たのですね……♡

びしょ

「あのお兄様……？
「ナナリー……どうした？
「まだ……一緒に……お風呂で
「洗い……こして……くれますか……？
「ああ……勿論だよ
「ふふ……それでは……これから私が
「お兄様を綺麗に洗って……差し上げますね……♡

びしょ

びしょ

「んっ♡ふ…あう…あん…♡
ほら…あ…挿入してくっ♡」
「会長…こんな、事…っ」
「あ♡♡は…ああ…♡」
「凄…奥…っ…届いてる…♡」
「か…会長…」
「いいから…あ…っ♡」
「ルルーシュは黙ってそのまま…
じっとしてなさい…ん…♡」
「しかし…っ…く…」
「私も…こんな格好してるんだしい…
たっぷり…犯してあげる…っ♡」



「あっ♡ああん…っ
や…っ♡コレ、スゴ…おっ♡
気持ち…良いよお…うん♡
か…いぢよ…っ
そんな…激しく動いたら…っ
何…よお…っまさかもう
射精そうだなって…っ♡
言わない…わよね…？
「…っく…あ…
「私が…っあ♡イクまで…
我慢…しなさいよ…おっ♡
男の子、でしょ…っ？
「そんな事言われても…っ
「あっ♡はあ…っ♡
もうちやうと…だから…あ





「あつ……らめええ……♡
イキそお……♡イクっ♡
「俺も、もう……♡
「良いよ……ナカに射精して♡
膣出して、イカせてえ♡
イクの……イチちゃ♡……あああ♡
「……はあ……♡
「あ……出てる♡……♡出されちゃつてる……
ルルーシユの……せーし……♡
「ふふ……こないつばい出されたら……
孕んじやうかも……ね……♡

「ほら、天子様…これが
殿方の性器ですわ
「薄く…大きいのですわ
「んっ…♡ちゅ♡ちゅ♡んっ♡
こうやって、啜えた所を擦った所
して差し上げると♡ん♡
「あっ…また大きく♡

「んっ♡旦那様には…このように
ご奉仕して差し上げるのが
妻の役目…だそうですよ♡
「そう…なのですか…?
「こうすると…とても気持ち
良くなつて頂けるんですって…
ねっゼロ様…♡

ドキドキドキ



「さあ、天子様もどうぞ♡
「えっ…私も？
「私と一緒に練習しませんか♡
「そう、ですね…
貴女と一緒になら…」

「んく…う…ん…ん♡
「そう、擦つて…先を舐めて…
「ん…おれひ、ふて…
「ふわえられまふえ…ん…
「唾えられなくても、舌や指で
刺激して差し上げれば良いのですよ
「んぶ…♡ふあ…ん…こう…？
「お上手ですわ、天子様…♡



「ぎやうー…何…?」
「んっ♡は…あ…凄いですわね回様…
こんなにくさん♡」
天子様、これは「せーし」でいいのですよ
「せー…し?」
「はい♡凄く気持ち良くなると
出てくるそうですわね。」

びん

びん

びん

びん

「神楽耶様…何だか私…
胸がどきどきしています…
私も胸が高鳴って熱くなって…
ゼロ様?もつと練習しても
宜しいですよよね…?」



「う…また後ろで…う
ごうちの方が感じて
いるじゃないか
「違っ…お、お前の趣味
だろっ…うん♡」

「ほら出すぞっ…
くっ…う♡あ
また…ナカに…♡」

「は…あッ…お前は本当に
尻が好きだな…ルル…シュ…
「違っな
「ぶっ…じゃあお前が
したいことは何なんだ？
私に…してみろっ…」

「ふ…ん…何だ、ルル…シュ…
お前、私にこんな泳着を
着せたかったのか…？」
「やはり、いやらしい男だな…
」然れ、魔女…お前が挑発
したんだろう？
「構わんさ、別に…お前が
どんな趣向でも…
私を良くしてくれるなら…」

くっ！！

おしり

おしり

「あ……♡挿入……♡あ……♡
お……♡いいルル……♡
そんなイキナリ……♡
「こうされるのが良いだろう？
激しく突かれて犯されるのが……♡
「あ……♡あ……♡う……♡は……♡あ……♡
だが……♡この体位は……♡
深すぎて……♡あ……♡あ……♡

「違う……♡
「ちゃんと言え……♡
「は……♡あ……♡も……♡
も……♡だ……♡ルル……♡
激しく……♡滅茶苦茶に犯せ……♡

お……♡

お……♡

お……♡

お……♡

お……♡

お……♡

「あぁっ…もうイ…くから…うっ
早くっ…お前も…
「くっ…待て、もう少し…だから…
「ひぁっ♡あっ♡あ…あぁっ♡
も…イクっ♡イイ…くっ♡
イっ…くうううううっ♡
ん…うっ…く…

びくっ

びくっ

びく

びく

びく

「はぁっ…あ…まだこんな…
どれだけ出せば気が済むんだ…？
「さあな
「わかった…なら今日は
お前が勃たなくなるまで
搾り取ってやるから…な…

「な、何を考えて……」
「そんなにやらしい水着で生徒を
挑発したのは先生でしょう」
「違うつーこれはムリヤリ
着せられて……」
「でも承諾したのは先生だ……」
「本当はそのいやらしい事を皆に
見せたかったんじゃないんですか？」
「わ、私は……」
「とにかく責任は取って
貰いますよ……先生」
「でも……今……脳でなんて……」
「ほはっ、先生の脳……スベスベして
気持ち良いですよ……」
「……この……変態……」



「あーんーあーはあーっ
「どうしたんですか？先生
「いやらしい喘ぎ声を出して
「違う…くすぐりたいだけっあ
「そんな声を出されたらもうっ
くっ出るっ
「また待っ…あーっあ
「うあーっこの感触
「零く良いですよ先生
「あーそんなに…精液が…
「まだまだ出し足りないですから
…もっとたくさん…色んな所で
味わわせてあげますよ先生
「あーあー



「ふふ♡…こおーんなに
出しちゃうなんて
溜まっていたの？」
「…うは…セシルさん
こんな…ダメです…」
「ココは素直みたいだけども…」
「まだ硬いままだし…
もつと出せるでしょう？」
…今度はちゃんと飲んで
あげるから…ね♡



ふん私の胸がどうどうに
なつてしまつたじゃないか
こんな行為が良いのか？
「良いです」
「そうかではもうと
良い声で啼いて貰おうか
「うはあ先生」
「そうだせうかく遊んで
やっているのだから」
「そうでなくては」な



「いつまで見ているつもりだ？
何だ？覗きか？良い度胸だな」
「え、うわっ、違っ」
「ならさっさと出て行け」
「マられたいなら別だが…？」



「あんっ♡…すっごい…たくさん…
男の子ってホント、おっぱいが
好きよねえ…やーらしい♡
」か…いちよっ…
「はいはい、わかってるって…
…私の胸…もっといっぱい
犯したいんでしょ…?
…好きなのは、してあげる…♡

「あ…は♡出ちゃった…
手だけでイっちゃうなんて
勿体なくない？
「…会長がいやらしいからですよ…
「ふうん…おっぱい見せるだけで
そんな風になっちゃうなら…
もつとスゴイこと…しちゃおうかなあ…
「…っ？
「なんてね♡…まだ、だーめ♡
…もうちやうと楽しませてくれたら
考えてあげる♡

ぽん

くっ

からふるぎあちゅぎあちゅ! R2

20080817 *HAPPY WATER/樹崎祐里

連絡先 * <http://www3.to/happywater>
naochu77@nifty.com

印刷所 * 木このしっぽ様

= SPECIAL THANKS =
泉くん(構成・彩色手伝い)

※禁・無断複製&転載。
※18歳未満の購入・購読を禁止します。



■初めましての方もおなじみの方もこんにちは。樹崎祐里です。コードギョースR271カラー本第3弾です。

■R2 本編の展開にどきどきしつつ毎週楽しみに読んでおます。でも毎回終わりが上手くて、続きが気になって気になって仕方ない! これ書いてる今は1話が終った所です... 悲しみに暮れる状況に深いつつ、これからまだ気の抜けない展開が続くんばな... と思うと居てもたっても居られません。や、ホント続きが観たい...! この本が発行してる頃にはまた違う状況になっているのでしょうか。怖いよ...

■今回、表紙は夏仕様な水着でまとめてみました。... 冬に売るのはしんどい本になるかも... なんて思いつつ... (笑)。水着を考えるのが結構楽しかったのですが、でもあんまりな仕様の水着って実際には無いよね... なんて思ったり。布の面積が狭すぎる。しかしあれだけの人数を書くのは結構しんどいよね... 特に今年の夏は「からふる」総集編でも表紙で多人数描き下したので... でもやっぱり描くのは楽しい

■それでは、ごきまひ付き合ひありがとうございました。次もまたお会い出来ることを願いつつ... (・ω・)E

200807 樹崎祐里。

⌘ からふるが あちゅが あちゅ! R2 ⌘
2008Summer*HAPPY WATER Presents
For Adult Only!

